

現在、国では、「我が事 丸ごと 地域共生社会の実現」を目指しています。「共生」とは何か、「共生」のために必要なことは何なのかについて、平成29年10月1日に政策秘書課職員と話した内容です。

## 「共生」のためのキーワード

私たちは、大人になってからは、高校や大学、会社といった同じ価値観、同じような能力の人達の中で、多くの時間を過ごすことが多いように思います。そこには、同じような人たちを集め、選抜するために、試験があることもあります。

一方、地域に住むためには、試験はありません。そのため、地域には、物事をきっちりと進めたい人、大雑把でも気にならない人、せっかちな人、ゆっくりな人等、実に様々な価値観、能力を持つ人が暮らしています。

異なる価値観、能力を持つ人達が、同じ地域の一員として一緒に暮らしていくためには、多様性を受け入れられる「大らかさ」が必要ではないでしょうか。

以前に私がいた介護の現場で、こんなことがありました。

介護施設の部屋の両端から、A、B、2人の職員がおむつ交換を始めました。A職員はおむつ交換が上手で、交換時間も早い。一方のB職員は、おむつ交換に時間がかかる上に、交換が不慣れで漏れてしまいます。

私が責任者として、B職員が対応した利用者さんに、「おむつ、漏れちゃったね。ごめんなさいね」と謝ったところ、「Aさんより、Bさんが良い」と言います。私が「Aさんの方が、きれいにおむつを換えてくれるし、早いし、良いでしょ？」と聞くと、「Bさんは、下手だけど、私の話をちゃんと聞いてくれる」と言うのです。

責任者からすれば、短時間に、より大人数のおむつ交換ができるA職員が「良い職員」です。でも、利用者さんからすれば、おむつ交換が下手でも、自分に向き合ってくれるB職員が「良い職員」です。どちらが良いかは、受け手によって異なり、どちらか一方が正解ではありません。

「早くやる」「きちんとやる」ことは、人口が増加していた、これまでの日本で求められてきたことです。人口が減っていく、これからの日本では、「ゆっくり」「だいたい」といったキーワードが必要な時代になるかもしれません。

「ゆっくり」「だいたい」といった大らかさこそが、多様な人々が暮らす地域で、「共に生きる」「共生」のためには、必要なことだと私は思っています。

来年10月、本市においてこの「地域共生」をテーマにした全国サミットを開催します。全国から多くの方が集まり、話し合いや事例発表が行われる予定です。

来年の開催に向け、「地域で共に生きる」「共生」とはどういうことか、何が必要なのか、みなさんと一緒に考え、取り組んでいきたいのです。



今年度開催地の宮城県岩沼市長から、次期開催地に引き継がれる「転ばぬ先の杖」を受け取りました

～市長の話を聞いて～

「共生」のためには、私自身は、共感する力も必要ではないかと感じています。自分と違う意見だったとしても、「あ、そこは分かる」と少しでも共感できる部分があると、相手の話を関心を持って聞くことができます。

最近、自分が暮らす地域の人と話す機会が増え、「本当にいろいろな考え方の人がいるなあ」と感じます。自分にとって正しいことが、決して多くの人の正しいことではないこともたくさんあります。反発する気持ちでの会話は、とげがある言葉になりがちですが、共感したり、共感されたりすると、会話も弾みます。「だいたい」「大らかさ」は、決して、なあなあな関係を求めるのではなく、互いの関係を豊かにするためのキーワードだと感じています。